

工事請負契約に係る最低制限価格の算定方式（試行実施）

算出方法

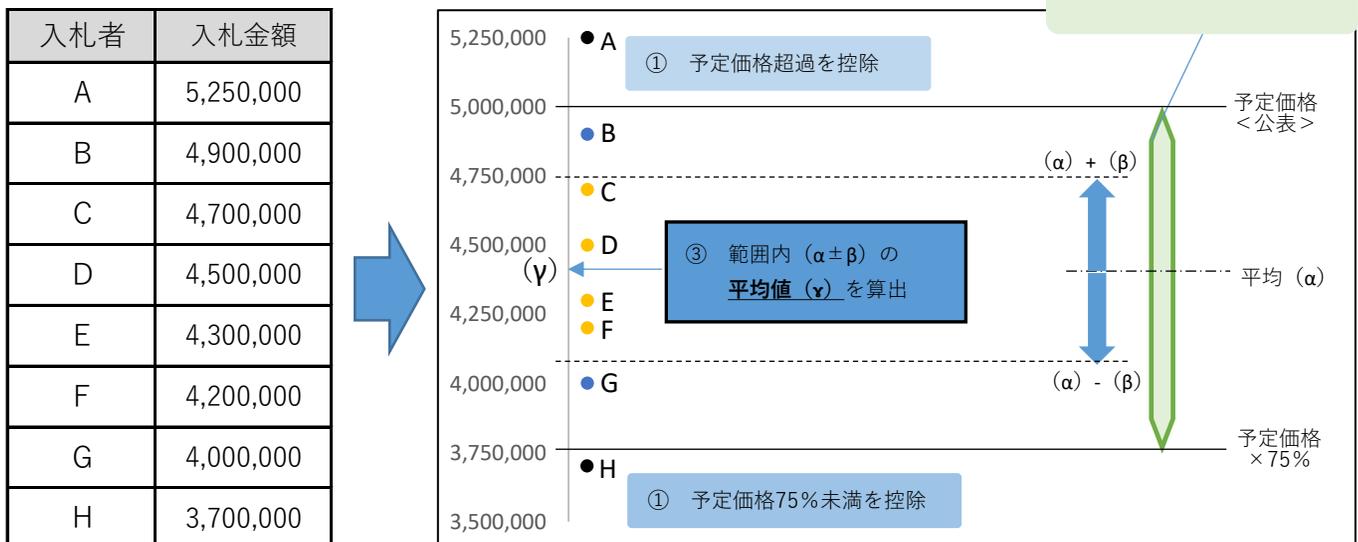
- ① 予定価格の超過・75%未満の入札を控除
- ② ①の平均(α)、標準偏差(β)を算出
- ③ 平均(α) \pm 標準偏差(β)の範囲内の入札額の平均値(γ)を算出
- ④ ③の値が従来の基準*で算出された最低制限価格未満であれば、最低制限価格として採用
(同額以上なら、従来の基準による算定額が最低制限価格となる)

※ (直接工事費 \times 97% + 共通仮設費 \times 90% + 現場管理費 \times 90% + 一般管理費 \times 55%) \times a
a : 機械が無作為に選んだ係数 (99.5%~100.5%の範囲内で0.01%刻み)

計算例

★予定価格 5,000,000円

★従来の基準で算出された最低制限価格 4,450,000円



① A (予定価格超過) と H (予定価格の75%未満) は算入しない

② (1) B~Gの平均入札額

$$(B + C + D + E + F + G) \div 6 = 4,433,333.333\dots$$

小数点以下第3位四捨五入 \Rightarrow **4,433,333.33円** (α)

(2) 標準偏差

$$\sqrt{\frac{(B-\alpha)^2 + (C-\alpha)^2 + \dots + (G-\alpha)^2}{6}} = 303,681.119\dots$$

小数点以下第3位四捨五入 \Rightarrow **303,681.12** (β)

③ (1) 平均入札額に算入する入札額の範囲

[上限] $\alpha + \beta = 4,737,014.45 \Rightarrow$ **4,737,014円** (小数点以下切り捨て)

[下限] $\alpha - \beta = 4,129,652.21 \Rightarrow$ **4,129,653円** (小数点以下切り上げ)

(2) (1)の範囲内の平均入札額

B (上限超過) と G (下限未満) は算入しない

$(C + D + E + F) \div 4 =$ **4,425,000円** (γ) (千円未満の金額は切り捨て)

④ γ ($\alpha \pm \beta$ の範囲内の平均値) と従来の基準で算出された最低制限価格を比較

4,425,000円 (γ) < 4,450,000円 (従来の基準で算出された最低制限価格)

最低制限価格 = 4,425,000円

② この範囲内の入札額の平均 (α) と標準偏差 (β) を算出

① 予定価格超過を控除

③ 範囲内 ($\alpha \pm \beta$) の平均値 (γ) を算出

① 予定価格75%未満を控除

標準偏差...

データのばらつきを表す値であり、標準偏差を用いることによって、平均から乖離した入札額の影響を抑えることができます。